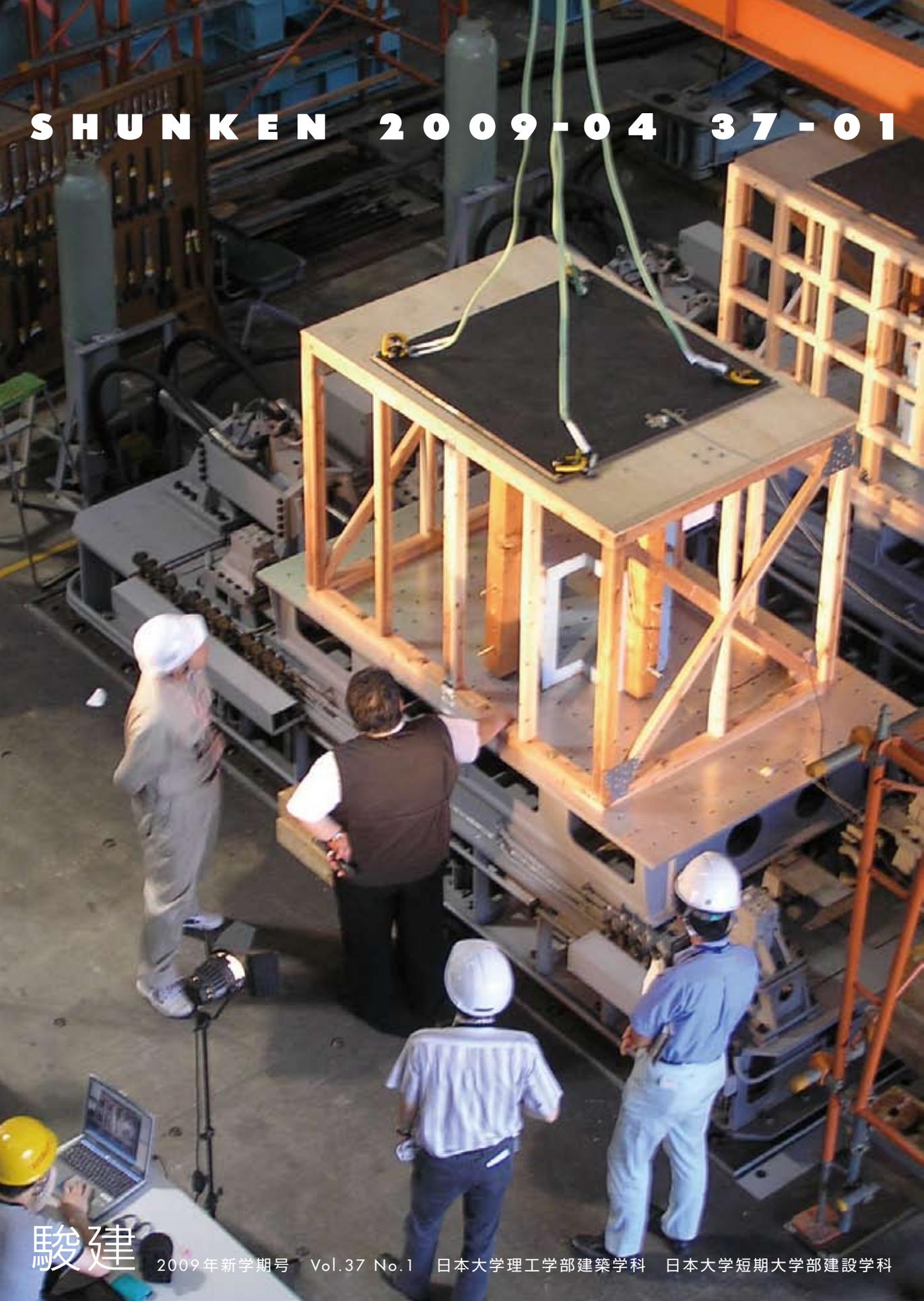


SHUNKEN 2009-04 37-01



プロフェッショナルを目指して

その3：新しい責任の時代に対応する建築士

白井伸明

平成20年度は国内外ともに激動の年であった。特筆すべき点は、わが国の4名の学者がノーベル賞（物理学賞の南部氏、小林氏、益川氏、化学賞の下村氏）を受賞したことであり、日本国民、とくに若手研究者に大きな希望と刺激を与えたことである。一方、大手証券会社「リーマンブラザーズ」の破綻を契機とした金融危機と世界同時不況の発信源となった米国では、「変革（change）」をモットーに掲げたオバマ氏が初の黒人大統領に当選した。オバマ大統領は就任演説で7項目のメッセージを発信している。原文および翻訳を読んだ限り十分には理解できないが、6番目の「新しい責任の時代（A new era of responsibility）」は興味がひかれる項目である。一度皆さんも読んでみてほしい。

さて、新学期の月号は、本学建築学科あるいは大学院建築学専攻に入学された学生諸君および在校生諸君に対するガイダンス号であり、多くは履修などの学務に関する内容が中心と思われる。本稿では2つのテーマを取り上げてメッセージを発信することにする。1つは本学「建築学科の伝統と歴史」に学ぶことであり、もう1つは「新しい建築士制度」に関することである。

わが国の平成20年度の大学・短大への18歳人口の進学率は55%であり、大学全入時代の到来といわれている。その結果、私立大学の47%は定員割れとなっている。そのため、多くの大学はAO入試や推薦入試により比較的早期の定員確保に努めている。本学理工学部の入学試験はだまかに「推薦入試」と「一般入試」に分類され、定員はそれぞれほぼ半数ずつを目標としている。幸いなことに、本学には比較的多くの付属高校が設置されており、入学定員の30～35%を「付属推薦入試」で受け入れることを目標にしている。一方、定員の約50%は一般入試により受け入れている。一般入試は、例えば英語・数学あるいは理科などの試験科目の総合点により受入判定が行われるため、受験生は興味のある分野（学科）より偏差値を重視して志望学科を選択する傾向があるようである。これが入学後に問題となる志望学科のミスマッチの原因の一つであるといわれている。

近年、「自分の大学の特色、建学の精神、伝統と歴史、

さらには卒業生の活躍」など「自校史」に関わる授業を開設している大学が増えているという（H21.2.18 読売新聞朝刊「論点」参照）。伝統と歴史を土台とした自校教育は、大学の存在理由を明確にし、教職員および学生の帰属意識を育て、独自に拠り所（得意）とする学問分野を発掘するのに役立つと考えられる。現在の理工学部は大正9（1920）年、建築と土木の2学科からなる高等工学校に始まり間もなく90年になる。初代の校長は「佐野利器先生」、建築科長は「笠原敏郎先生」である。学生諸君は一度、日大理工70年史編集委員会編『伝統と情熱の70年史』（H2年2月発行）および日大桜門建築会編『歩：桜門建築会70年のあゆみ』（H3年3月発行）を読んで、建築学科の伝統と歴史を知っていただきたい。

理工学部は平成20年度にカリキュラムを改正し、各学科が定めた教育目標や独自の教育内容を達成したかどうかをチェックする「卒業達成度評価科目」を4年次に設置した。建築学科では、ターゲットを「一級建築士」合格レベルとして現在その具体的な準備を進めているところである。

一方、平成17年の建築構造計算書偽装問題の発覚を受けて、「建築士法の一部を改正する法律」を盛り込んだ「改正建築士法」が平成20年11月28日に施行された。これまでは本学の建築学科を卒業して2年間の建築に関する実務経験を満たせば一級建築士の受験資格が得られた。また、大学院修士課程の2年間は実務経験と同等と見なされた。これに対して改正法は、「建築士の資質・能力の向上」に向けての施策の一環として建築士受験資格（「学歴要件」と「実務経験要件」）の大幅な見直しを行ったのである。この改正法は平成21年度入学の学部生および大学院生に適用される。建築学科では、学部、大学院とも担当教員を中心に全教員が協力してカリキュラムの改正を行い、現状で取りうるベストの対策を講じている。

最後に、これらのメッセージをどう受け止めて将来に役立てるかは、ひとえに学生個々の意思・努力・ポテンシャルに依存すると考える。建築学の中で自分のポテンシャルを活かせる分野を見出し、無駄や努力を惜みず、本物のプロフェッショナルを目指して成長されることを期待する。（しらいのぶあき・建築教室主任・教授）

平成21年度 建築学科 履修要項

履修に関する一般事項

履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」に収められた履修要覧、および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り

平成21年度 クラス担任 学部

学年		クラス担任	研究室(駿河台5号館)
1年	専門	山崎 誠子 (設計・計画)	587A室
	〃	宮里 直也 (環境・構造)	569A室
2年	1組	橋本 修 (環境・構造)	578B室
	〃	山田 雅一 (環境・構造)	565B室
	2組	渡辺 富雄 (設計・計画)	585B室
	〃	田嶋 和樹 (環境・構造)	567B室
3年	1組	古橋 剛 (環境・構造)	564A室
	〃	川島 和彦 (企画経営)	594B室
	2組	宇杉 和夫 (設計・計画)	584A室
	〃	蜂巢 浩生 (環境・構造)	578A室
4年	1組	中田 善久 (環境・構造)	566A室
	〃	八藤後 猛 (設計・計画)	585A室
	2組	根上 彰生 (企画経営)	595A室
	〃	山中新太郎 (設計・計画)	588B室
	再修生	佐藤 光彦 (設計・計画)	588A室

大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	安達 俊夫 (環境・構造)	565A室
2年	大川 三雄 (設計・計画)	576A室

大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年・2年	宇於崎勝也	595B室
-------	-------	-------

平成21年度 委員会他担当

就職指導	本杉 省三	586A室
公務員対策	川島 和彦	594B室
学芸員	重枝 豊	575A室
学生相談室相談員	橋本 修	578B室
	古橋 剛	564A室
	山崎 誠子	587A室
	栗原のり子	542室
建築教室事務室	矢萩有美子	
設計講師室	梅田 綾	553室
	岩崎 陽子	

扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成20年度の、また3年次編入生には平成19年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にともなって改訂されることがある。1～2年次生は平成20年度改正のカリキュラム(以下、「H20カリキュラム」)、3～7年次生は平成15年度改正のカリキュラム(以下、「H15カリキュラム」)、8年次生はそれ以前のカリキュラムによる。8年次の学生が1～4年次設置科目を受講する場合、および3年次以上の学生が1～2年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表(時間割の最終ページ参照)によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

相互履修および単位互換制度 日本大学相互履修制度は、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたものである。上の相互履修制度を短期大学部にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは「学部要覧」を参照されたい。

受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しな

ければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

教職課程・学芸員課程の受講 中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、「学部要覧」を参照されたい。

GPA 制度 (Grade Point Average) 平成17年度入学生より日本大学として統一の成績評価システム (GPA 制度) が導入された。これは授業内容の向上や成績評価の統一化などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1年次のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

サブメジャー制度 サブメジャー (副専攻) 制度が平成20年度入学生より適用され、他学科に設置された科目群の中から16単位を修得することで、建築学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を理工学部が認証する。修了者には修了証書が授与される。詳しくは「学部要覧」および時間割を参照されたい。

早期卒業 本学部にて3年以上在学し、卒業の条件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる者で、日本大学大学院理工学研究科に進学する者を対象とする制度で、平成20年度入学生より適用される。早期卒業者でも通常の卒業者と同様に建築学科の学位を取得でき、一級建築士の受験資格のための学歴要件も満足することができるが、認定されるためにはさまざまな条件が設定されている。詳細は「学部要覧」を参照するとともにクラス担任に相談されたい。

1年次生

履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される「平成21年度 (2009) 学部要覧」に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この「学部要覧」には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、「学部要覧」の科目概要およびガイダンス時に配布される授業計画 (シラバス CD-ROM) で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

H20カリキュラムについて

平成20年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっており、専門科目の受講に必要な基礎教養や技術を修得することを目的としている。「学部要覧」の授業科目配置表を見るとわかるように、1年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できることが本カリキュラムの特徴である。なお、いずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「**建築学科履修の手引き**」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築学科教室がコースを決定する。

教養教育科目・外国語科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる教養教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が設置されている。専門基礎教育科目には、「デザイン基礎」、「建築基礎実験」の必修2科目および「建築基礎数学」、「建築基礎物理Ⅰ、Ⅱ」、「コンピュータリテラシ」の選択4科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、「デザイン基礎」の単位を修得しないと「建築設計Ⅰ」を受講できないことに留意すべきである。

専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修5科目と選択3科目の計8科目が設置されている。この内、「環境の計画と技術 (必修)」、「社会と建築・都市インセンティブ (必修)」、「建築デザインと歴史」、「構造の計画と技術」の4科目は、広汎な建築分野への導入と学習意識の向上を図るために設けた科目である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を修得するものであり、すべての受講をすすめる。また、「建築スタディ・スキルズ (必修)」は、専門科目を履修するための基礎教養や技術を修得するものである。なお、1年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計Ⅰ」の単

位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

1年次では最大49単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日5時間まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

2年次生

専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した「平成20年度(2008)学部要覧」による。2年次から本格的な専門教育課程に入り、教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。それぞれ該当するクラスの時割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、1年次設置の専門教育科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目(11科目)はもちろんのこと、共通に位置づけられている8科目についても、「必修」と同様に考えて受講してもらいたい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目である「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目(卒業のためには◆印6科目中5科目以上を修得する必要がある)であり、本コースを目指す場合には必ず受講することをすすめる。

H20カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「2008年 建築学科履修の手引き」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術史」、専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」、「建築情報処理Ⅰ」の5科目が設置されている。受講計画は、環境工学、構造、

都市計画の基礎として「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また、3年次にはコース毎に独自の専門教育科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになることにも注意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間で卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築学科教室は「2年終了時の取得総単位数が52単位」という条件を設定している。これは卒業研究・設計への着手条件(3年次終了時に98単位)から、1年間で取得できる単位数の上限(46単位)を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく修得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に建築学科教室が実施するが、学生個々の修得科目の成績(総得点、平均点)や内容などに基つき適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程は掲示や建築学科のホームページを通じてクラス担任から伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

「建築生産実験」、「建築設計Ⅱ、Ⅲ」の受講について

実験も建築設計も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。

駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は駿河台校舎5号館4階および6階EVホール掲示板に掲示されるので、確認するように心がけてほしい。また、建築設計の注意事項は5階EVホール掲示板に掲示される。

3年次生

各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースのいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「平成19年度(2007)学部要覧」あるいは「2007年度 建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

3年次では、最大60単位までの履修登録が認められる。受講計画の際にはこの点について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究・設計着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難

な場合にはクラス担任に相談するとよい。

基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」、「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」、「芸術史」が設置されている。受講計画は、環境・構造・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コース独自科目」に大別できる。

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容(シラバス)で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また、表1の※印のついた科目は、一級建築士受験のために極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究・設計の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうこ

表1 3年次専門教育科目「共通科目」の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	○	○	△
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	○	○	○
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可
※ 一級建築士受験のために重要

表2 3年次専門教育科目「各コース独自科目」一覧

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2 ×建築設計Ⅳ	2 都市デザイン*2
	環境工学Ⅲ	2 ×設計演習Ⅱ	2 経済学特論Ⅰ
	構造力学Ⅳ	2 ×設計演習Ⅲ	2 経済学特論Ⅱ
	構造力学演習Ⅳ	1 設計計画Ⅰ	2 会計学
	地盤基礎工学Ⅱ	2 設計計画Ⅱ	2 民法Ⅰ
	対地震構造	2 ランドスケープデザイン	2 民法Ⅱ
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2 インテリアデザイン	2 行政法規
	構造設計Ⅰ及び演習	3 建築史Ⅲ	2 不動産経営
		2 建築史Ⅳ	2 不動産維持管理
		2 都市デザイン*2	2 鑑定評価理論Ⅰ
		×都市調査及び演習	2 環境システム解析
		×デザインワークショップⅠ*	2 地域開発計画Ⅰ
		×デザインワークショップⅡ*1	2 地域開発計画Ⅱ
			2 ×建築企画設計及び演習Ⅰ
			1 ×不動産企画及び演習Ⅰ

× 他コースは受講不可能

*1 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成21年度は「Ⅱ」が開かれる

*2 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

とを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、卒業条件には10単位まで算入可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された「各コース独自科目」の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち「共通科目」のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、コース独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件をすべて満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）。
- ・3年次終了時に卒業研究・設計着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）。

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち、他コースの独自科目受講は他学科の設置科目受講扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、10単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入できないことに留意すべきである。

卒業研究・設計着手条件について

4年次に卒業研究・設計に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%に当たる102単位以上を3

年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるので、十分に注意してほしい。この卒業研究・設計の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・総合教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、14単位、2単位、16単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて修得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、英語6単位まで、その他の外国語4単位まで算入する。
- ・他学科の設置科目（他コースの独自科目も含む）は、算入しない。
- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：17科目31単位、設計・計画コース：16科目31単位、企画経営コース：17科目32単位）から24単位以上修得していなければならない。

これらの条件の内、先の3条件を考慮すると、専門教育科目の修得単位数は、必修科目を含めて60単位以上修得する必要があることになる。

また、4年次の卒業研究・設計に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1、2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コース設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

就職について

本来ならば、4年次になって卒業研究・設計指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について指導の先生と相談するのが理想であるが、実際には就職活動は3年次の期末試験前後から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築学科教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまで

表3 4年次設置共通科目の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	10	●	●	●
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表4 各コースの独自科目一覧（4年次）

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	環境計画 2	特別講義*1 (デザイン論) 2	不動産特別講義 2
	設備計画 2	×建築設計Ⅵ 2	不動産マーケティング 2
	特別講義*1 (構造設計論) 2	設計計画Ⅲ 2	鑑定評価理論Ⅱ 2
	×測量及び実習 2	保存修復論 2	都市防災 2
	構造解析法 2	×デザインワーク ショップⅠ*2 1	×不動産企画及び演習Ⅱ 2
	構造設計Ⅱ 2	×デザインワーク ショップⅡ*2 1	建築マネジメント 2

× 他コースは受講不可能

*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

*2 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成21年度は「Ⅰ」が開かれる

の修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究・設計着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究・設計のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

卒業研究・設計の着手について

建築学科における卒業研究・設計着手条件は、上述の「3年次生」の項目に記述している「卒業研究・設計着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究・設計着手条件を満足する学生は、「駿建」2009年1月号のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や4月初めの卒業研究・設計ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

卒業研究・設計とは

大学生生活の締めくくりは、4年生の卒業研究・設計である。各研究室が自由に、国際的に通じるような研究・設計を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち修士論文・設計と卒業研究・設計の指導が、先生個人にも大学にとっても教育の中心となっ

ている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。1年間、研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めていく。

研究・設計には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつめながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究・設計である。

専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの4年次に設置されている専門教育科目を表3と4に示す。2、3年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースの設置科目から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件をすべて満たす必要がある。

- ・3年次終了時までの修得単位数が125単位以上の場合。
 - ・4年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
 - ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
 - ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表4中の×印の付いた科目は受講できない）。
- なお、他コース設置科目を修得した場合、10単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。

専門教育科目に関する卒業条件

ここでは平成15年度からのH15カリキュラムを対象として説明する。平成14年度以前の入学者については、入学時に渡された「学部要覧」、「建築学科履修の手引き」、あるいは「駿建」2005年4月号を参照してほしい。建築学科の卒業に必要な単位は130単位以上と設定されているが、この内、総合教育科目が14単位、外国語科目が10単位、保健体育科目が2単位、基礎教育科目が16単位、その他いずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース設置科目も含む）が10単位、それぞれ上限値として算入されるため、専門教育科目としては78単位以上取得する必要がある。この専門教育科目に関わる卒業条件は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。例えば環境・構造コースは共通科目の取得を重視しているのに対して、設計・計画コース、企画経営コースは3年次以上のコース独自科目の修得が必要とされている。

【環境・構造コース】

- ①必修科目18科目41単位
- ②選択共通科目（26科目50単位）から、1・2年次の科

目(12科目23単位)9科目以上を含めて29単位

③環境・設備系群科目(6科目10単位)から8単位,または構造・生産系群科目(15科目27単位)から8単位の3条件が設定されている。各コースは以下の条件をすべて満足して,78単位以上修得することが条件となっている。これは卒業研究・設計に着手できた場合,4年次前期で十分に修得できる単位数である。履修計画を立てる際には,各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて,卒業研究・設計の指導教員やクラス担任と相談の上,選択するのが望ましい。

【設計・計画コース】

①必修科目17科目41単位

②選択共通科目(27科目50単位)から1・2年次の科目(12科目23単位)7科目以上を含めて17単位

③設計・計画系群科目(18科目34単位)から20単位の3条件が設定されている。この内,③は2年次の科目の「設計演習Ⅰ」以外はすべて3年次以上のコース独自科目である(表2,4を参照)。この中には建築設計,設計演習,デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており,受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

【企画経営コース】

①必修科目18科目42単位

②選択共通科目(22科目41単位)から12単位

③企画経営系群科目(21科目41単位)から※印の科目(「建築企画経営」,「経済学特論Ⅰ」,「民法Ⅰ」,「建築企画設計」,「不動産企画及び演習Ⅰ,Ⅱ」)の6科目11単位を5科目以上含めて24単位

の3条件が設定されている。また,4年次設置の専門科目は,コース独自科目がほとんどである。

大学院進学について

デザイナー,構造デザイナー,(室内)環境設計者,研究職など,将来,専門性の強い分野での活動を目指す諸君には,大学院博士前期(修士)課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると,これらの分野への就職は大学院修了者が断然有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては,「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期(修士)課程と博士後期(博士)課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成22年度入学試験の募集定員はそれぞれ50,10名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生(社会人は除く)が受験できる入学試験は,7月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第Ⅰ期入学試験」,9月に実施される「一般第Ⅱ期入学試験」および3月実施の「一般第Ⅲ期入

学試験」の4種類である。

現状では,大学院進学者は学部4年次卒業研究・設計の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって,進学希望者は大学院での学修・勉学・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員(現状15名)を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

●環境・設備系(環境工学特別研究):2名

池田耕一,井上勝夫

●材料・構造・防災系(建築材料学特別研究,建築構造学特別研究,防災工学特別研究):7名

中田善久(材料),安達俊夫(構造),白井伸明(構造),半貫敏夫(構造),三橋博巳(構造),岡田章(構造),古橋剛(構造)

●設計・計画系(建築史特別研究,建築計画特別研究,都市計画特別研究):6名

大川三雄(歴史),本杉省三(計画),横河健(計画),今村雅樹(計画),佐藤光彦(計画),根上彰生(都市計画)

建築学科では,より広い分野にわたる教育・研究活動の推進,充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

①大学院教員1人あたりの受入大学院生数は概ね6名までとする。

②学内推薦入学試験の受験資格は,卒業見込者の成績(卒業研究着手時)が概ね上位25~30%に入る学生で,大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし,大学院教員が推薦できる学生数は最大4名までとする。

③大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は,国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。

④短大教員を含む専任講師・助教以上の大学院教員以外の教員は,大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし,受入大学院生は教員1人あたり2名までとし,協同指導の大学院教員の6名枠には含めないものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが,詳しくは4年生クラス担任に相談するとよい。

また,不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は,根上彰生教授に相談すること。

建築実験について

建築実験は,それぞれ十数名の班単位で行われる。各

実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に示す。

建築設計について

1～2年次生は、H20カリキュラム、3～7年次生は、H15カリキュラム、8年次生は、それ以前の旧カリキュラムでの履修になるので留意すること。

- ・建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2009年度 建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階EVホール掲示板、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。

1～7年次生（平成15年度以降入学者）

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

「建築設計」はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の「設計演習Ⅰ」は選択科目である。3年次前期の「建築設計Ⅳ」は、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

「建築設計Ⅴ、Ⅵ」、「設計演習Ⅱ、Ⅲ」、「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザ

イン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、3、4年次生を対象として、夏季集中授業として交互に隔年で開講される。
 ・必修科目である「デザイン基礎」、「建築設計Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
 ・選択科目である「建築設計Ⅳ～Ⅵ」、「設計演習Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

8年次生（平成14年度以前入学者）

「(旧)建築設計」はⅠ～Ⅲまでが必修科目で、3年次後期の「(旧)設計演習Ⅰ」と4年次前期の「(旧)設計演習Ⅱ」は選択科目である。「(旧)設計演習Ⅰ、Ⅱ」は、将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

・建築設計の科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。「(旧)デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ」を修得しないで「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を、「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を修得しないで「(旧)建築設計Ⅲ」と「(旧)設計演習Ⅰ」を、「(旧)建築設計Ⅲ」と「(旧)設計演習Ⅰ」を修得しないで「(旧)設計演習Ⅱ」を受講することはできない。すなわち、建築設計科目は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。

・「(旧)デザイン基礎Ⅰ、Ⅱ」、「(旧)建築設計Ⅰ、Ⅱ」を修得していない者は、平成15年度から新しいカリキュラムがスタートしているため、表6に示すように科目名称が変更となっているので留意すること。事務担当に確認の上、再受講手続きを行う。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧（平成15年度以降入学者）

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 宮里	化学実験（一般化学：小泉）
	物理実験（一般物理：伴） 専門科目 構造部材（宮里） 構造強度（宮里） 風洞実験（三橋、下村、広部） 振動実験（古橋（剛）、秦）
建築生産実験（必修・1単位） 中田	木材・コンクリート実験 （中田、中山、飛坂、和美） 鋼材実験（半貫、三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修、他コース：選択；1単位）井上	騒音実験（井上、雷田） 設備実験（池田、蜂巢） 光実験（橋本、加藤）
建築構造実験（環境・構造コース：必修、設計・計画コース：選択；1単位）宮里	構造安定実験（宮里） 構造部材実験（白井、田嶋、清水（泰）） 土質実験（安達、山田）

(注) 実験項目については、担当者の研究室へ、可否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目対照表

学年	前・後期	旧カリキュラム	H20・H15カリキュラム
		8年次生以上	1～7年次生
1年	前期	(旧)デザイン基礎Ⅰ	デザイン基礎
	後期	(旧)デザイン基礎Ⅱ	建築設計Ⅰ
2年	前期	(旧)建築設計Ⅰ	建築設計Ⅱ
	後期	(旧)建築設計Ⅱ	建築設計Ⅲ
3年	前期	(旧)建築設計Ⅲ	建築設計Ⅳ*1
		—	設計演習Ⅱ
	後期	(旧)設計演習Ⅰ	建築設計Ⅴ
		—	設計演習Ⅲ
	夏季集中	—	デザインワークショップⅠ、Ⅱ
4年	前期	(旧)設計演習Ⅱ	建築設計Ⅵ
	夏季集中	—	デザインワークショップⅠ、Ⅱ
前・後期	前・後期	(旧)卒業制作	卒業研究・設計*2

■ 全コース必修

*1 設計・計画コース、企画経営コースの学生は必修

*2 時間割では、7年次以上の登録のために「卒業制作」を設けてある

建築士受験資格について

平成 20 年 11 月 28 日に改正建築士法が施行され、この改正で建築士受験資格の見直しがなされている。大学に関係する部分では、学歴要件、実務経験要件の変更がある。

学歴要件

建築士試験の受験資格について、「所定の学科卒業」という従来の要件から、「国土交通大臣が指定する科目を修めて卒業」という要件に変更された。この見直しは平成 21 年度入学生から適用される。法施行時(平成 20 年 11 月 28 日)に既に所定の学科を卒業している人、所定の学科に在学中の学生には従来の学歴要件が適用される。

新制度では学科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが卒業までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、建築士受験資格を得ることになる。

建築学科では、平成 21 年度は 92 科目 173 単位が登録されている。環境・構造、設計・計画の 2 コースは卒業条件を満たすだけで、自動的に実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。一方、企画経営コースは卒業条件を満たすだけでは実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が得られず、実務経験 3 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。実務経験 2 年で一級建築士の受験資格を得るためには、履修科目の計画にあたって注意が必要である。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

実務経験要件

建築士の受験には、学歴要件の他に定められた期間の実務経験が必要である。従来は大学院博士前期課程の修了が 2 年間の実務経験に認められていたが、新制度では、大学院における建築設計(意匠設計、構造設計、設備設計等)・工事監理に関するインターンシップを必須条件として、これと連携した演習・実習等の科目、講義科目の単位取得状況に応じて実務経験年数を算定する。この見直しは平成 21 年度大学院入学生から適用される。法施行時(平成 20 年 11 月 28 日)に既に所定の課程を修了している人、所定の課程に在学中の大学院生には従来の実務経験年数の算定が適用される。

新制度では専攻科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが大学院修了までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、実務経験年数を算定する。

建築学専攻科では、平成 21 年度は、夏季休暇、春季休暇を利用する学外のインターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの他、学内のインターンシップ 2 科目と関連する演習・実習 5 科目、講義 13 科目が登録されている。これらの科目を履修することで、意匠設計、構造設計、設備設計の

各専門領域で 1 年または 2 年の実務経験年数を得ることが可能になっている。履修の仕方によっては、実務経験年数が 0 年となることもある。

履修計画にあたっては、学外のインターンシップは夏季休暇、春季休暇を利用すること、大学院修了の単位数には入らないこと等注意すべき点がある。自己の将来設計を考慮して、履修科目の計画をする必要がある。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

インターンシップ

インターンシップは性格の異なる 2 種類で構成されている。1 つは学外の建築士事務所等における実務訓練であり、もう 1 つは専任教員(実務として設計活動を行っている建築家/一級建築士=プロフェッサー・アーキテクト)と設計事務所を自ら経営ないしチーフ・アーキテクトとして活動している建築家(非常勤講師/一級建築士)が連携して学内で行われる設計実務訓練である。

表 7 指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数(大学)

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
①建築設計製図	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
②建築計画	7 単位	7 単位	7 単位			
③建築環境工学	2 単位	2 単位	2 単位	7 単位	7 単位	7 単位
④建築設備	2 単位	2 単位	2 単位			
⑤構造力学	4 単位	4 単位	4 単位			
⑥建築一般構造	3 単位	3 単位	3 単位	6 単位	6 単位	6 単位
⑦建築材料	2 単位	2 単位	2 単位			
⑧建築生産	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位	1 単位
⑨建築法規	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位
①～⑨の計 (a)	30 単位	30 単位	30 単位	20 単位	20 単位	20 単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)	60 単位	50 単位	40 単位	40 単位	30 単位	20 単位
必要な実務経験年数	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

表 8 実務経験年数と必要単位数

必要単位数		インターンシップ の単位数	インターンシップ関連科目 の単位数	
実務経験 2 年	実務経験 1 年		演習・実験・ 実習	講義
30 単位以上	15 単位以上	4 単位以上	8 単位以下	8 単位以下

建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
環境の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
構造の計画と技術	建築通論	建築通論編集委員会 編	彰国社	3,675	ガイダンス時に案内
	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法 —作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
環境工学 I	建築環境工学 [改訂2版]	田中俊六, 武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会	日本建築学会	1,890	書店
環境工学 II	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
建築設備 I	建築設備学教科書 新訂第二版	建築設備学教科書研究会 編著	彰国社	3,780	書店
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
建築設備 II, III	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	4,200	ガイダンス時に案内
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
建築基礎実験・建築生産実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	材料施工研究室(566A)
	はじめてまなぶちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
構造力学 I, II	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
構造力学 III, IV	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	齋藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	3,360	日本建築学会, 書店
構造力学演習 I, II, III, IV	建築構造力学演習(上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築材料Ⅰ,Ⅱ	建築材料用教材	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	材料施工研究室(566A)
応用力学Ⅰ,Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	地盤基礎研究室(565A)
応用力学演習Ⅰ,Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	書店
構造とデザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築構造のしくみ				
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間 ースポーツ・イベント・展示ホールー	日本建築学会	彰国社	1,937	空間構造デザイン研究室(569B)
建築構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造(構造システムを理解する)		彰国社	2,730	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
建築構法Ⅱ	建築構法	内田祥哉	市ヶ谷出版	2,940	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	
	図解テキスト 基本建築学	上杉 啓, 真鍋恒博 他	彰国社	4,410	
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
鉄筋コンクリート構造Ⅰ,Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計 ー学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	鋼構造研究室(568B)
地盤基礎工学Ⅰ,Ⅱ	基礎構造の設計 ー学びやすい構造設計ー	日本建築学会関東支部	日本建築学会関東支部	3,600	地盤基礎研究室(565A)
	建築基礎構造設計指針(2001改定)	日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
構造設計法及び演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説1999 ー許容応力度設計法ー	日本建築学会	日本建築学会	5,880	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	空間構造デザイン研究室(569B)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	6,090	日本建築学会, 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内
構造解析法	エクセル有限要素法入門 骨組構造解析編	山下四郎, 田中寿美	山海堂	3,200	書店
デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武 他	彰国社	3,150	書店
	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,415	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築設計Ⅰ	建築設計教室 新訂 建築製図	勝又, 宮下, 本杉 日本建築学会	彰国社	3,150	書店
			彰国社	1,680	書店
建築法規Ⅰ	基本建築関係法令集 上巻 (法令編) 平成20年版	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	未定	書店もしくは 指定された日に購入
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門 建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著 大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
			大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内
建築計画Ⅰ・Ⅱ	建築計画を学ぶ 第3版 コンパクト建築設計資料集成	建築計画教材研究会 編 日本建築学会編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内
			丸善	5,040	ガイダンス時に案内
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間 建築人間工学事典 人間工学の百科事典	日本建築学会 日本建築学会	丸善	9,870	書店
			彰国社	3,780	書店
			丸善		書店
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ 設計方法Ⅴ 一設計方法と設計主体 デザインの鍵 建築デザインと環境計画	建築計画教材研究会 日本建築学会, 建築計画委員会, 設計方法小委員会 池辺 陽 柏原士郎 編著	理工図書	3,675	書店
			彰国社	2,447	書店
			丸善	3,675	書店
			朝倉書店	5,040	書店
設計計画Ⅲ	場所の空間学 日本住宅の空間学 事例で読む現代集合住宅のデザイン 日本の空間認識と景観構成 見沼田んぼの景観学	宇杉和夫 宇杉和夫 日本建築学会 宇杉和夫 宇杉和夫	古今書院	未定	ガイダンス時に案内
			理工図書	3,200	書店
			彰国社	2,730	書店
			古今書院	11,200	書店
古今書院	2,600	書店			
建築史Ⅰ	日本建築図集 日本建築史序説	小林文次 他 太田博太郎	相模書房	2,625	書店
			彰国社	2,940	書店
建築史Ⅱ, Ⅲ	図説 近代建築の系譜 日本の近代建築(上, 下) 図説 近代日本住宅史 建築モダニズム 近代和風を探る(上, 下)	大川三雄 他 藤森照信 大川三雄 他 大川三雄 他 大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
			岩波新書	各651	書店
			鹿島出版会	3,360	書店
			㈱エクスナレッジ	3,150	書店
㈱エクスナレッジ	各1,470	書店			
建築史Ⅳ	東洋建築史図集 新建築学大系3 東洋建築史	日本建築学会 編	彰国社	3,255	書店
			彰国社	7,088	書店
都市計画Ⅰ, Ⅱ	都市の計画と設計 第2版 都市計画 第3版 初めて学ぶ都市計画	小嶋勝衛 監修 日笠 端, 日端康雄 根上彰生 他	共立出版	3,675	書店
			共立出版	3,990	書店
			市ヶ谷出版	3,150	書店
都市デザイン	都市の計画と設計 第2版 まちづくりデザインの プロセス	小嶋勝衛 監修 日本建築学会 編	共立出版 丸善	3,675 1,995	書店 書店
不動産企画及び演習Ⅰ, Ⅱ 建築企画設計	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル	エクスナレッジ編集部	㈱エクスナレッジ	4,935	書店

平成21年度 短期大学部建設学科 履修要項

はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか（＝履修計画）については各自に自由が与えられるとともに責任が生じる。各々が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据えて履修計画を練ることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画を立てること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生（表1）に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位（総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修:28単位、選択:8単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が偏ることなく建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい諸制度〔成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定〕について概説し、さらに、建築デザインと建築実験の受講に際する注意を述べる。

成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N（S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、GPAは

累積GPAのみの記載となる。

GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてそれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（(1)式・表4参照）。表4の例では、 $GPA = 19/9 = 2.11$ となる。

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	酒匂 教明	船橋校舎 9号館 926・A	047-469-(5487)
	大塚 文和	船橋校舎 5号館 545・A	047-469-(5480)
2年	羽入 敏樹	船橋校舎 6号館 622・A	047-469-(5263)
	矢代 眞己	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5819)

表2 卒業に必要な単位

科目区分	卒業要件単位数	
総合教育科目	12	
基礎教育科目	7	
専門教育科目	必修科目（17科目）	28
	選択科目	8
科目区分によらない任意の単位	7	
総計	62	

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント

成績表上の表記	グレード・ポイント	
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数62単位に含まれない単位(部外単位)
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

履修科目の登録単位数の上限

学期ごとに履修登録できる単位数には上限が設けられており、1年次前学期は29単位、1年次後学期および2年次前・後学期は25単位となる。また、各年次のサマーセッション(夏季集中授業)とスプリングセッション(春季集中授業)では別枠で、それぞれ6単位を上限に履修登録することができる。

ただし、直前の学期GPA(グレード・ポイント・アベレージ)が2.5以上であり、かつ当該学期での修得単位数のうち卒業要件に参入することのできる単位数が21単位以上であれば、次学期の履修登録の上限は29単位となる。

4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように気をつけること。なお、導入教育科目については、登録単位数としてカウントしない。

単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大

学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなければならぬ。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

学芸員課程

学芸員とは博物館法第4条第4項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成17年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコース・福祉住環境コースの選定は2年次初めに自由に選択することができる。1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どのコースで主に学んでいきたいのか、どのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される(表5)。なお、所属コースによらず建設学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ

建築デザインは建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディア デザイン演習Ⅰ	1	建築メディア デザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサル デザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくり ワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方—実験レポート作成から学術論文構築まで—演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	名作住宅で学ぶ建築製図	藤木庸介 編	学芸出版社	2,940	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
ベーシック建築計画 建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	2019年版 建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計[第2版]	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室(1357)
建築史Ⅰ	日本建築図集 日本建築史序説 中世日本建築工匠史	小林文次	相模書房	2,625	ガイダンス時に指示
		太田博太郎	彰国社	2,940	書店
		浜島一成	相模書房	3,360	書店

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：935教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディア デザイン演習Ⅰ	1	建築メディア デザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサル デザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくり ワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方—実験レポート作成から学術論文構築まで—演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	名作住宅で学ぶ建築製図	藤木庸介 編	学芸出版社	2,940	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
ベーシック建築計画 建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	2019年版 建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計[第2版]	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	横内・岡田研究室(1357)
建築史Ⅰ	日本建築図集 日本建築史序説 中世日本建築工匠史	小林文次	相模書房	2,625	ガイダンス時に指示
		太田博太郎	彰国社	2,940	書店
		浜島一成	相模書房	3,360	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築史Ⅱ	西洋建築史図集 マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	日本建築学会 編	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
		矢代真己, 田所辰之助, 濱崎良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
デザイン論	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代真己, 田所辰之助, 濱崎良実 大川三雄 他	彰国社	2,625 3,360	田所研究室 (545B)
空間デザイン	空間 構造 物語 建築構造のしくみ 図解事典 建築のしくみ	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (921B)
		川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (921B)
		建築図解事典編集委員会 編	彰国社	3,990	黒木研究室 (921B)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉 監修	理工図書	4,893	内藤研究室 (926B)
木質構法	3階建てまでできる 一記入式2×4の構造設計入門	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料用教材 第3版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	建築教室事務室(915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学 建築応用力学 改訂版	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
		小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
		西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に指示
鋼構造	建築鉄骨構造 第2版	松井千明	オーム社	3,360	黒木研究室 (921B)
構造の計画と設計	新版 わかりやすい鉄筋コ ンクリート構造の設計	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,570	内藤研究室 (926B)
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
建築施工法	円滑に進めるためのRC工事のポイント (建築技術2009年1月号別冊12)		(株)建築技術		ガイダンス時に指示
ベーシック建築環境	環境教育用教材 学校のなかの地球	日本建築学会 編	日本建築学会	2,100	吉野研究室 (545A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学 建築環境工学用教材 環境編 住宅の環境設計データブック	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
		日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備学教科書 新訂第二版 建築環境工学用教材 設備編	建築設備学教科書研究会	彰国社	3,780	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
福祉住環境概論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 3級 過去問題集 media5 Premier Royal 福祉住環境コーディネーター2・3級	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	ガイダンス時に指示
		TAC福祉住環境研究会 編	TAC(株) 出版事業部	1,680	ガイダンス時に指示
		徳田良英 監修・解説	株式会社メディアファイブ	13,440	
建築ユニバーサルデザイン論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト 子どもを事故と犯罪から 守る環境と地域づくり	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,650	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所	5,040	書店
		野村 歡, 八藤後 猛 他	中央法規出版	2,310	書店
障害者支援論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト [図解]高齢者・障害者を考えた建築設計 障害者が居住する住宅の設計資料集	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所	5,040	書店
		榎崎雄之 国土交通省住宅局住宅総合整備課 監修	井上書院 ぎょうせい	3,150 2,095	書店 書店
人間工学	Ergonomics for beginners	J.Dul and B.Weerdmeester	Taylor&Francis		ガイダンス時に指示
情報処理	Excel VBAのプログラミングの ツボとコツがゼッタイにわかる本	立山秀利	秀和システム	2,310	書店
建築メディアデザイン演習Ⅰ, Ⅱ	THE MAYA 5 perfect book	土田 仁	ビー・エヌ・ピー・新社	5,250	ガイダンス時に指示
建築企画概論	都市・建築・不動産・企画開発マニュアル		(株)エクスマレッジ	5,145	ガイダンス時に指示
海洋建築概論	海と海洋建築 海と科学 地球の海と気候	前田久明, 近藤健雄, 増田光一 柳 哲雄	成山堂	4,830	大塚研究室 (545A)
		寺本俊彦	恒星社	1,995	書店
			御茶ノ水書房	840	書店
建築測量学	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に指示

平成20年度 各賞受賞者一覧

優等賞*1 (学部・短期大学部)

安並 卓嗣
三宅 由祐
織田澤奈月
佐藤 哉子

北岡 若奈
神崎 聡美
高崎真理子
菅 美穂

酒井 恵美
石野 史子 (短期大学部)
山口 雄大 (短期大学部)

齋藤賞*2 (大学院)

〈修士論文〉 奥村 晃史 伝達加振りに着目した乾式二重床構造の重量床衝撃音発生系の検討 指導：井上勝夫教授
増田久美子 そで壁付柱および有開口耐震壁が架構の耐震性に及ぼす影響の把握と評価手法の検討 指導：白井伸明教授

吉田鉄郎賞*3 (大学院)

〈修士論文〉 西村 朋之 劇場の避難計画からみたコンチネンタル座席配列に関する研究 指導：本杉省三教授
〈修士設計〉 一條 真人 上野恩賜公園日本美術館構想 ―東京国立博物館既存施設群改修及び上野公園への拡張計画― 指導：佐藤光彦准教授

駿建賞*4 (大学院)

〈修士論文〉 大野 裕明 輝度分布計測ツールを用いた都市光環境の評価に関する研究 指導：関口克明教授
小原沢あかね ロービジョン者の屋外歩行安全に関する研究 ―残存感覚と空間把握― 指導：関口克明教授, 八藤後 猛専任講師
〈修士設計〉 櫻田 和也 南池袋二丁目都市計画道路沿いの街並み再生計画 指導：横河 健教授
渡邊 有祐 座・築地本願寺 指導：本杉省三教授
輪湖 大元 新宿区荒木町・木造密集市街地の再生計画 指導：佐藤光彦准教授
―特異地形における更新手法の提案及び建替え住宅群の設計―
米山 涼子 羽田空港国際化計画 ―国際文化交流により交通拠点となる空港ターミナルの設計― 指導：横河 健教授

駿構賞*5 (大学院)

〈修士論文〉 河野 俊作 弾性範囲内で設計されたストリング式骨組架構 (SKELSION) の弾塑性応答性能について 指導：岡田 章教授
加藤 千博 アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 ―剛性比, 境界条件および偏心による影響― 指導：岡田 章教授

桜建賞*6 (学部・短期大学部)

〈卒業研究〉 小林由布子 駅構内歩行時におけるロービジョン者の光の捉え方と天井照明の利用についての調査研究 指導：橋本 修准教授
油野 球子・中澤 史成・中村 文彦 DM (ダイナミック・マス) 付き制震構造に関する基礎的研究 ―位相差が振動特性に及ぼす影響― 指導：石丸辰治教授, 古橋 剛准教授
安並 卓嗣 四足脊椎動物の骨格構造と建築構造への適用性について 指導：岡田 章教授, 宮里直也助教
―多ピンPSアーチの提案と基礎的実験―
平田 史明 絵画・文献資料にみる大工道具と作事現場に関する一考察 指導：重枝 豊准教授
―鋸・鉋・鉋・鑿・墨壺の使用法を中心として―
佐久間智己・高瀬 治郎・力武 俊輔 ベトナム・ハノイ市旧市街地の街路空間特性に関する研究 指導：川島和彦専任講師
〈卒業設計〉 夏目 将平 浮島美術館は泳ぐ ―日本の沿岸空間の再生― 指導：今村雅樹教授
〈短期大学部 卒業制作〉 高野 美央 Memento Mori ―生命の記憶の場としての斎苑 指導：矢代眞己短大准教授, 吉野泰子短大教授
金 鍾旭 韓半島統一記念ホール 指導：田所辰之助短大准教授, 横村隆子非常勤講師

奨励賞*7 (大学院・学部)

- 〈修士論文〉 佐藤 瑠美 音楽ホールにおける上方から到来する反射音が音の空間印象に及ぼす影響
指導：関口克明教授, 羽入敏樹短大准教授
- 藤原 圭吾 プレストレスを利用したガラス構造の適用性に関する実験的研究
—ハイブリッド・ガラス・ビームの応力制御効果の検討— 指導：岡田 章教授
- 石井 陽 蔵田周忠の「近代建築」観に関する研究 —住宅作品を中心とする考察—
指導：大川三雄教授, 田所辰之助短大准教授
- 〈卒業設計〉 下大園将人 SHINJYUKU GATE 新宿駅南口基盤整備事業に対するカウンタープロジェクト 指導：今村雅樹教授

駿建コンペティション業績賞*8 (大学院)

- 輪湖 大元 佐藤(光)研究室

桜工賞*9 (大学院・学部・短期大学部)

- 〈大学院〉 太田 宏 第43回地盤工学研究発表会(2008)において優秀論文発表者賞受賞 安達研究室
一條 真人・中村 太一 「第3回愛知建築士会学生コンペ」にて優秀賞受賞 佐藤(光)研究室
- 櫻田 和也 「第3回『新・木造の家』設計コンペティション」にて入賞, 「第27回総合報道OOH賞2008」にて佳作受賞 横河研究室
- 高橋 恵多 「第3回『新・木造の家』設計コンペティション」にて入賞, 「木愛の会 第1回設計競技」にて特別賞受賞, 他 横河研究室
- 瀧口 優 「第6回リフォーム&リニューアル設計アイデアコンテスト」にて佳作受賞 今村研究室
- 〈学部〉 三宅 由祐・近藤 和樹・清水 恵美 建築学科アルバム作成委員として研究室の取りまとめに尽力した 岡田研究室
- 下大園将人 2006年度学園祭における構造デザイン研究会展示「建築展」の実行委員長として取りまとめに尽力した 今村研究室
- 奥山 良樹 「第15回空間デザイン・コンペティション」提案部門にて佳作受賞 本杉研究室
- 〈短期大学部〉 杉山 正和 各種学内行事における展示設備の製作など広報活動への貢献 短期大学部
- 村上 竜一 バトミントン部での活躍および、短大の情宣行事など広報活動への貢献 短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*10 (大学院不動産科学専攻)

- 後藤 将人 重要伝統的建造物群保存地区における空き家利活用方策に関する研究
指導：小嶋勝衛教授, 根上彰生教授, 宇崎崎勝也准教授, 川島和彦専任講師
- 佐藤 隆二 地方都市における港湾の活性化方策に関する研究
—港湾活性化に取り組む先進事例の土地・施設利用に着目して— 指導：横内憲久教授, 岡田智秀専任講師(兼任)
- 高橋 智仁 高齢者対応の民間賃貸住宅の供給に関する研究 —東京都を対象として— 指導：三橋博巳教授

日本環境管理学会・木村賞*11 (大学院不動産科学専攻)

- 山元 武士 大学施設における個別分散型空調方式の運転コスト削減に関する研究 —夜間の一斉停止の効果—
指導：早川 眞教授

* 企画奨励賞は企画経営コースの優れた卒業企画設計作品に対し、企画経営コース同窓会より授与。今年度は該当作品なし。

- *1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。
- *2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築会より授与。
本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤稔雄、榎並昭各先生の寄金を追加。
- *3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。
戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。
駿建賞基金は、小林文次、富川英二、近江栄、小谷喬之助、木村翔、若色峰郎各先生の寄金による。
- *4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、駿建賞基金より授与。駿建賞基金については*3参照。
- *5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与。
駿構賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立、構造系教授の寄金を追加。
- *6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、桜門建築会より授与。
- *7 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。
- *8 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江栄先生の発案により設立。駿建賞基金については*3参照。
- *9 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。
- *10 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。大学院不動産科学専攻専任教員、佐藤進、浅香勝輔各先生の基金による。
- *11 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。日本環境管理学会名誉会長木村宏先生の基金による。

平成20年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

大学院博士後期課程

主査：片桐正夫教授，副査：石澤良昭教授(上智大学)，大川三雄教授，重枝 豊准教授 ————— 建築学専攻
小島 陽子 10世紀のクメール宗教建築における伽藍構成と造営手法の変遷に関する基礎的研究

主査：片桐正夫教授，副査：白井伸明教授，石澤良昭教授(上智大学)，大川三雄教授，重枝 豊准教授 — 建築学専攻
CHHEAN RATHA クメールレンガ造建築の構造技術の発展過程に関する研究
—ブレ・アンコール期からアンコール期初頭のレンガ造祠堂を中心として—

大学院博士前期課程

井上勝夫教授 ————— 建築学専攻

伊東 和 ゴムボール加振による床の体感振動評価方法の検討

岩下 将也 歩行時の隅角部の曲がりにくさと歩行特性についての実験的検討

奥村 晃史 伝達加振力に着目した乾式二重床構造の重量床衝撃音発生系の検討

山中 一生 スラブの振動伝搬特性を考慮した床衝撃音発生系の検討

関口克明教授 ————— 建築学専攻

大野 裕明 輝度分布計測ツールを用いた都市光環境の評価に関する研究

関口克明教授・羽入敏樹(短大)准教授 ————— 建築学専攻

佐藤 瑠美 音楽ホールにおける上方から到来する反射音が音の空間印象に及ぼす影響

早川 眞教授 ————— 建築学専攻

森田 英和 外壁線の後退した容積率緩和の高層建物が周辺空気質に及ぼす影響

安達俊夫教授 ————— 建築学専攻

太田 宏 山留め壁に作用する土圧—変位関係の繰返し挙動に関する実験的研究

岡田 章教授 ————— 建築学専攻

赤岩 英和 ホルン型張力膜構造のボンティング現象に関する基礎的研究
—ばねストラット式張力膜構造の提案と有効性について—

小野 晋 レンズ型二重空気膜構造の強風時の構造挙動について
—動的応答解析手法の提案と風応答に基づく強風時の内圧設定—

加藤 千博 アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 —剛性比、境界条件および偏心による影響—

河野 俊作 弾性範囲内で設計されたストリング式骨組架構 (SKELSION) の弾塑性応答性能について

川又 哲也 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の応力弛緩に関する研究
—安定ひずみを考慮した応力—ひずみモデルの提案—

竹内 義典 HP形状の膜パネルを有するトリアコン分割されたジオデシックドームの基本的構造特性に関する研究

竹本 孝輔 キューブ型張弦シザース構造の基本的構造特性に関する研究—偏心部材モデルによる耐風性能評価

西山 明宏 き裂を考慮したガラスの破壊性状および強度に関する基礎的研究

畠山 峰行 サスペン—アーチ・グリッドルーフの基礎的研究
—ブリペンディング・アンブレラの仮設空間への適用性について—

藤原 圭吾 プレストレスを利用したガラス構造の適用性に関する実験的研究
—ハイブリッド・ガラス・ビームの応力制御効果の検討—

白井伸明教授 _____ 建築学専攻

今井 究 サブ要素を考慮したファイバーモデルによるRC造柱の耐震性能評価に関する研究
増田久美子 そで壁付柱および有開口耐震壁が架構の耐震性に及ぼす影響の把握と評価手法の検討

三橋博巳教授 _____ 建築学専攻

楠本 直樹 模型雪を用いた建物周辺の雪の吹きだまりに関する研究

今村雅樹教授 _____ 建築学専攻

浅野 友里 帯広市中心市街地の活性化を目的とした集住体と地域施設の設計
大島 可菜 地域特性から創出する郊外型地域施設の設計
—粕市旧沼南町の役場・公民館・保健福祉センターの建て替え及び里山・谷津の修景を通じた市民活動拠点の再生—
金 南一 宇治市ウトロ地区における地域密集型国際交流施設の設計 —戦前から残る韓国人集落とその周辺地域再生の計画—
瀧口 優 患者と家族のための入院環境を充実させた小児医療施設の設計
—北多摩北部保健医療圏において、保健・医療支援拠点としての都立清瀬小児病院建て替え計画—

横河 健教授 _____ 建築学専攻

榎本 裕亮 京島地区木造密集地域まちづくり計画
桐澤 航 高特殊技術を保有する点在型町工場再生計画
—墨田区における広域産業振興を目的とした工場集積複合施設の設計—
櫻田 和也 南池袋二丁目都市計画道路沿いの街並み再生計画
高橋 恵多 「柳橋一丁目地区再生計画」 —パッシブデザインによる都市型居住群の設計—
中野 義基 京浜臨海部再構築計画 —産業観光・学習ネットワーク創出を目的とした交通・情報拠点の設計—
村瀬 友輝 複合文化施設への移行を前提とした小学校施設の設計
米山 涼子 羽田空港国際化計画 —国際文化交流により交通拠点となる空港ターミナルの設計—

佐藤光彦准教授 _____ 建築学専攻

浅岡 翔太 海の森環境学習施設計画 —東京湾最終埋立地の地形を利用した公園ランドスケープと建築の設計—
一條 真人 上野恩賜公園日本美術館構想 —東京国立博物館既存施設群改修及び上野公園への拡張計画—
中村 太一 ヨコハマフォーラム —新・横浜市庁舎の設計を通じた巨大庁舎建築の再構築—
萩原 玲子 多摩メディカル・キャンパスにおける都市型リハビリテーション施設の設計
—医療を中心とした地域の活動支援施設の計画—
輪湖 大元 新宿区荒木町・木造密集市街地の再生計画 —特異地形における更新手法の提案及び建替え住宅群の設計—

本杉省三教授 _____ 建築学専攻

岩本 光太 小規模高齢者共同居住における共用空間のあり方に関する研究 —グループリビングでの交流を中心として—
西村 朋之 劇場の避難計画からみたコンチネンタル座席配列に関する研究
松山 大樹 幕張・若葉地区新中学校の計画 —地域文化を育む学校—
渡邊 有祐 座・築地本願寺
谷口 円 図書館における中学・高校生の居場所形成に関する研究
—中学・高校生及び図書館運営者へのアンケートを通して—
加畑 亮子 建築・都市空間におけるコミュニケーション形成についての一考察
—私性が拡張した公共圏での人間のふるまい・意識と空間の関係—

関口克明教授・八藤後 猛専任講師 _____ 建築学専攻

小原沢あかね ロービジョン者の屋外歩行安全に関する研究 —残存感覚と空間把握—

本杉省三教授・宇杉和夫准教授 _____ 建築学専攻

千葉 哲彦 都心路地空間の継承とその整備方針に関する調査・研究 —地区の形成過程と居住者意向の分析を通して—

片桐正夫教授 _____ 建築学専攻

関口あゆ美 教会堂建築における鉄川与助の設計思想に関する基礎的研究 —折上天井をもつ教会堂を中心として—

朴ジンウク 日韓民家建築の技術的特徴に関する比較研究 —共通する気候環境における分析を通して—

片桐正夫教授・重枝 豊准教授 _____ 建築学専攻

加藤久美子 アンコール時代に建造された石橋の構成と構築技術に関する基礎的研究 —“王道”に分布する石橋を中心として—

木下 洋道 クメール宗教建築における楼門の変化とその要因解明に関する基礎的研究

—10世紀から12世紀中頃までの平面形状と架構形式を通して—

長沢 紘人 クメール宗教建築における回廊の形成過程に関する研究

—9世紀から11世紀初頭の伽藍の付属建物の配置計画と寸法構成の分析を中心として—

大川三雄教授・田所辰之助(短大)准教授 _____ 建築学専攻

石井 陽 蔵田周忠の「近代建築」観に関する研究 —住宅作品を中心とする考察—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師 _____ 建築学専攻

副島 宏介 土地区画整理事業における建築物の誘導手法に関する研究 —船橋市坪井地区整備事業を事例として—

平田 直純 既存不適格マンションの建て替え可能性に関する研究 —横浜市を事例として—

本郷 寛和 わが国における創造都市政策の実態に関する研究 —文化・芸術による産業の再生・創出に着目して—

小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師 _____ 不動産科学専攻

泉山 壘威 都心部における「エリアマネジメント」の導入実態に関する研究

小林 弘典 公共施設再編における計画策定手法に関する研究 —地域住民および地域活動組織の参画に着目して—

後藤 将人 重要伝統的建造物群保存地区における空き家活用方策に関する研究

櫻井 恵介 大規模集客施設の広域的観点からの立地調整方策に関する研究

櫻井健太郎 地域の安全確保に配慮した木造戸建て住宅の耐震改修等助成制度に関する研究

早川 眞教授 _____ 不動産科学専攻

山元 武士 大学施設における個別分散型空調方式の運転コスト削減に関する研究 —夜間の一斉停止の効果—

三橋博巳教授 _____ 不動産科学専攻

高橋 智仁 高齢者対応の民間賃貸住宅の供給に関する研究 —東京都を対象として—

田村 華本 給油所における土壌汚染の実態と対策に関する研究

豊田 真巳 中古市場における分譲集合住宅のリノベーションコストに関する研究

内藤 千明 大規模団地における修繕更新に関する研究

廣森 愛実 世界遺産登録が地域に及ぼす影響に関する研究 —石見銀山を事例として—

横内憲久教授 _____ 不動産科学専攻

佐藤 隆二 地方都市における港湾の活性化方策に関する研究 —港湾活性化に取り組む先進事例の土地・施設利用に着目して—

鈴木 伸吾 地域住民の日常利用を促す都市部の人工海浜整備に関する研究 —東京湾沿岸の人工海浜全9事例を対象として—

平成20年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

学部

井上勝夫教授・富田隆太助教

秋山智絵美・坂本 将哉

建築空間の隅角部における歩行者の曲がりにくさに関する検討

飯田 拓 側路伝搬（外壁固体音）が室内遮音性能に与える影響に関する検討

岩井 悠貴・磐上 今紫

住宅床歩行時における人の感覚評価に関する研究

海老原一晃・笠井 誠子

コンクリートスラブ素面に対する重量床衝撃音予測計算法の精度向上に関する検討

小川 輔・関口 優子

住宅の音環境問題の発生原因と司法判断に関する考察

奥富 昂・柴道翔太郎

都市における熱・街並み景観に関する実験的研究

狩野 桂佑・山下 洋平

乾式二重床内部音圧を考慮した重量床衝撃音発生系の検討

佐々木 隼・村田 義明

窓状開口の電波透過性状の把握と引き違い窓の電磁シールド性能向上に関する研究

高橋 雄大 集合住宅における性能リフォームの普及・促進に関する基礎的研究

長島明日香 環境振動に対する居住者反応と振動応答物理量に関する基礎的研究

樋口 洋介・吉澤 玲児

広帯域複合振動を対象とした振動感覚に関する研究



橋本 修准教授

久保 文人 ケプストラム法を用いた騒音下での拡声音制御についての基礎的検討

小林由布子 駅構内歩行時におけるロービジョン者の光の捉え方と天井照明の利用についての調査研究

関根 愛 駅構内歩行時における視覚障害者が利用する知覚情報の変化と建築的要素との関連

鶴巻雄一郎 建築空間内における受聴者の態度が拡声時の音声情報伝達に与える影響についての検討
—騒音下での受聴者の歩行動作と意識による変化—



関口克明教授・吉野泰子(短大)教授

赤石祐理子 全般照明点滅による緊急情報伝達システムの検討

飯田 愛美 ライトシェルフによる漏れ光制御に関する研究

磯 吏 高齢者と若年者の違いを考慮した光環境設計に関する研究
その1 年齢と視力による文字を読むための必要照度に与える検討

丸茂 友美 高齢者と若年者の違いを考慮した光環境設計に関する研究 その2 色温度が文字の読みやすさに与える影響

矢後亜季子 高齢者と若年者の違いを考慮した光環境設計に関する研究 その3 全般照明に求める空間の明るさ感の検討

北田 恵士 夜景の好ましい印象に物理的要因が与える影響 その1 夜景写真の輝度解析及び輝度・密度変化の影響

高石 水輝 夜景の好ましい印象に物理的要因が与える影響
その2 光源の配列, 色, 大きさによる比較並びに実夜景と実験結果の検討

北野 陽子 ピクトグラムの認識に必要な表示面輝度と照射方法の検討

榊原 彩 光源の色温度が「求める空間の明るさ感」に与える検討

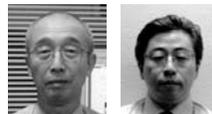
福田亜李沙 住宅における化粧空間の光環境改善に関する研究



- 佐々木康行 共同住宅における環境配慮型建築に関する試み その1 緑化効果によるH.I.P低減効果
 有我健太郎 共同住宅における環境配慮型建築に関する試み その2 ナイトパーズの効果的導入に関する検討
 北岡 若奈 共同住宅における環境配慮型建築に関する試み その3 擁壁の設置形状と気流の導入に関する検討
 山本 景子 共同住宅における環境配慮型建築に関する試み
 その4 建物性能とライフスタイルが年間暖冷房負荷に及ぼす影響

早川 眞教授・蜂巢浩生専任講師

- 梅澤 友宏 7号館氷蓄熱システムの効率向上に関する実験的研究
 大和田真史 超高層ビルの自然換気の研究 一都心上部の空気質の分析一
 加藤 透 外壁線の後退した容積率緩和の高層建物が周辺空気質に及ぼす影響
 岸 真弘・永井 英之
 超高層複合ビルの空調設備の計画に関する研究
 国分 達哉 超高層建築の外気取入れ口、排気口の研究 一建物貫通風路内の風圧分布一
 鈴木 利英・宮澤 亜衣・中野 峰宏
 日大建築学科生宅のエネルギー使用実態と省エネルギー意識に関する調査



- 高崎真理子・根本 穂・藤江 雅和・藤村 太気・松本 敬
 継続的な運動が脊髄損傷者の温熱環境への適応能力に及ぼす影響に関する研究
 加部 悠子 大学施設におけるビル用マルチ空調機の夜間一斉一旦停止の省エネルギー効果に関する研究
 細井 克記 5号館の換気性能の評価と改善
 増川 智聡 トレーサガスとしての二酸化炭素ガスの空調機内での濃度減衰に関する実験的研究
 脇田 寛之 実験動物の飼育環境とその課題について 一研究論文における飼育環境情報の取り扱い方から一

安達俊夫教授・山田雅一助教

- 秋庭 雄大 セメント改良砂の強度・変形特性に関する実験的研究
 一非排水条件での降伏特性と破壊基準一
 雨宮 秀俊・荻須 慎司
 小径鋼管杭の杭頭固定度に関する研究
 伊東 結也 粘性土改良土の一軸圧縮強度の評価方法に関する実験的研究
 内村 洋輔 長期材齢におけるセメント改良砂のせん断強度と残留強度の評価方法
 榎本 智章 山留め壁設計に用いる地盤ばねに関する実験的研究 一三軸試験による側方応力一側方ひずみ関係のモデル化一
 荻野 裕行・川嶋 億人
 ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発に関する研究
 折尾幸治郎 洪積砂の内部摩擦角の評価法に関する研究 一地盤調査資料に基づく調査一
 木村 誠・関 貴明
 東京都白山地区と大塚地区における既存擁壁の実態調査
 住吉 良子 ベンダーエレメントによる砂の剛性評価に関する研究
 関根 憲幸 安定処理土のせん断波速度測定システムの開発に関する研究
 馬場 雄大・山田 秀
 傾斜荷重を受ける布基礎の支持力特性に関する研究 一アルミ棒積層体を用いた模型実験一
 松井 悠平 砂地盤の液化化における過剰間隙水圧の評価法に関する実験的研究
 一累積損傷度と累積塑性ひずみエネルギーの比較一



石丸辰治教授・古橋 剛准教授

- 渡辺 直子・山田 賢次・三上 恭平
 DM (ダイナミック・マス) 一ばね直列系システムの開発に関する基礎的研究



油野 球子・中澤 史成・中村 文彦

DM (ダイナミック・マス) 付き制震構造に関する基礎的研究 —位相差が振動特性に及ぼす影響—

永田 恭裕・平子 雄大・荒井 恵美

Webサイトを利用した地震情報配信システムに関する研究

渡辺 直輝

ゴム球を用いた免震システムの開発 —集材材を免震架台に用いたゴム球免震支承—

池田 裕磨

教育用模型の製作

岡田 章教授・宮里直也助教

尾崎 恵美

日本におけるガラス建築の分析的研究 —現状把握と今後の在り方—

織田澤奈月

ドーム型ガラス構造に関する研究

神崎 聡美

レンズ型二重空気膜構造の連結時における構造挙動について

栗田 基

HP曲面を有する膜構造の構造特性に関する実験的研究 —ETFEフィルムの張力膜構造への適用性の検討—

近藤 和樹

トリアコンドームの施工方法の提案 —膜の張力導入方法について—

佐野 仁

木造格子構造の力学特性に関する実験的研究 (その2) 接合部の性能について

清水 恵美

木造格子構造の力学特性に関する実験的研究 (その1) 格子のパターン変化による剛性の把握

杉本 泰輝

アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 —束本数による影響—

高橋 宏充

竹の仮設建築物への適用に関する実験的研究

地脇 未帆

異形サスペンアーチの有用性に関する実験的研究

辻 隆浩

EP曲面型張弦シザース構造の基本的構造特性に関する研究

中山 正則

衝撃時におけるガラスの破壊性状に関する実験的研究

福井 直輝

ばねストラット式張力膜構造に関する基礎的研究 —風荷重時における膜面挙動について—

藤木 雄太

テンセグリティーの張力導入方法における検討 —プリベンディング・テンセグリティーの提案—

安田 真弓

ガラスと膜のハイブリット構造に関する研究

安並 卓嗣

四足脊椎動物の骨格構造と建築構造への適用性について —多ピンPSアーチの提案と基礎的実験—

吉岡 真一

木柱 (ダボ) の構造特性に関する実験的研究 —木柱の新しい活用方法の提案—

大野彩記子

光弾性実験による集積型木質吊屋根構造の力学特性に関する研究

田島 寛

多面体・幾何学おもちゃを利用した展開式ドームの提案 —施工時を考慮した人力施工の可能性—

道下 祐貴

開口を有するジオデシックドームの構造特性に関する実験的研究

三宅 由祐

ガラスチューブの構造部材への適用性に関する実験的研究



白井伸明教授・田嶋和樹助教

伊藤 唯

曲げ降伏後にせん断破壊するRC造柱の非弾性変形挙動に関する検討
—改良ファイバーモデルを用いた解析的検討—

大平 和也

曲げ降伏後にせん断破壊するRC造柱の非弾性変形挙動に関する検討 —画像計測法を用いた変形成成分離—

内田 成美

耐震補強間接接合部の力学的性状に影響を及ぼす要因と既往の設計式に関する考察

加藤 朋大

データベースに基づくRC造柱の挙動に関する研究 —既往実験データの収集及び影響因子の検討—

唐 行麒

選点弧長法における最適制御点の選点法に関する研究

増子 貴透

RC造柱梁接合部のせん断耐力に影響を及ぼす要因の統計的評価

村松 智也

残存ひび割れ幅に基づくRC柱部材の残存耐震性能評価 —除荷時剛性低下指数 α の検討—

堀川 真之

実大寸法を有するRC造十字型柱梁接合部の解析モデルの構築

荒井 美子

グラウト代替材としての新材料の開発 —グラウト材の材料特性に関する既往文献の調査—

北野 由樹

耐震診断におけるそで壁付柱の評価法に関する解析的検討

木本 菜実

有開口耐震壁の耐力・変形性能に及ぼす開口位置と形状の影響に関する解析的検討



中田善久准教授



- 金替 俊明** 高性能AE減水剤を用いたコンクリートの乾燥収縮に関する研究
—養生方法の違いがコンクリートの乾燥収縮に及ぼす影響—
- 工藤 勇太** 高強度コンクリート中の構成割合とコンクリートの性状に関する研究
—単位水量および粗骨材の種類による検討—
- 濱田 大地** 解体工事におけるパイプサポートの設置方法に関する研究
—鉄骨造における安全なパイプサポートの設置方法のフローの提案—
- 秋元 康宏** 建築材料の表面仕上がりが状態に関する研究 —棧木および鋼管の構成方法が型枠の曲げ剛性に及ぼす影響—
- 石井 新** コンクリートの吸水性状に基づく品質評価に関する研究
—高強度域にある異種セメントコンクリートの調査・強度の推定—
- 嘉数真理子** 高性能AE減水剤を用いたコンクリートの乾燥収縮に関する研究
—粗骨材の種類がコンクリートの乾燥収縮に及ぼす影響—
- 酒井 恵美** 高性能AE減水剤を用いたコンクリートの乾燥収縮に関する研究
—石灰石微粉末の置換がコンクリートの乾燥収縮に及ぼす影響—
- 諏訪 朱美** 高強度コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 —ポンプ圧送性および左官仕上げ性に関する検討—
- 高橋加津菜** プレキャストコンクリート製品の実態に関する調査研究 —表面仕上がりが状態の美観性に関するアンケート調査—

半貫敏夫教授



- 遠藤 直弥・西 航太**
既存木造住宅耐震補強要素の強度・変形性能に関する研究
- 吉村 智貴** 数値流体解析ソフトを用いた樹木の配置方法による防風効果に関する研究
- 増岡 宏一・山野邊義達**
ラフネスブロックにおける列柱式高床建物周囲の雪の吹きだまりに関する研究
- 倉本八緒那** 昭和初期の鉄骨造倉庫に用いられた構造用鋼材の物性調査
- 横山 優** 低層鋼構造建築物構成部材の強度・剛性比に関する調査研究
- 品田 要** 数理的アプローチによる限界状態設計法に関する研究 —一次世代の構造設計—
- 坂上 好美・田中 沙織**
400N級鋼材を用いた柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験
—その1 改良型単純化構造モデルによる接合部破壊実験—
- 清水 俊介** 400N級鋼材を用いた柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験
—その2 破面遷移温度に着目したN-Type引張試験による靱性評価—

三橋博巳教授



- 浅沼 大** 建物の環境性能評価に関する研究 —CASBEEとLEEDについて—
- 大山 匡仁** マンションの履歴情報の取組みに関する研究 —マンションみらいネットについて—
- 酒尾 健志** 超長期住宅先導的モデル事業に関する研究
- 長谷川 篤** 地域住宅交付金を活用した助成事業に関する調査研究 —地域材を利用した木造住宅を対象に—
- 平本 卓也** 市町村合併と地域福祉に関する研究 —神奈川県相模原市を事例として—
- 牧園 千尋** 街路空間の特性に関する研究 —原宿・表参道とその周辺にある街路を対象として—
- 松本 賢二** 大宮駅周辺の土地価格に関する研究 —住宅地域の土地価格形成要因の分析—
- 宮澤 浩佑** 市町村合併の在り方に関する研究 —静岡県における行政区分—
- 吉元 裕樹** 地域の活性化とコミュニティに関する研究 —多摩川アートラインプロジェクトの活動に着目して—
- 和田 朋美** 公開空地の利用実態に関する研究 —東京都港区を対象として—

今村雅樹教授

〈卒業設計〉

- 加藤 友美 広がるはっぱと都市の森 ー傾斜地における住空間の研究ー
- 小林 加奈 木漏れ日より
- 小林 輝之 Museum @ Akihabara ー100のキャラクターをもつ展示空間ー
- 佐藤 久子 渋谷コロニー ーひととモノの積層ー
- 下大園将人 SHINJYUKU GATE 新宿駅南口基盤整備事業に対するカウンタープロジェクト
- 松島 雄太 Moving Market
- 田中 克茂 東京新宿100物語
- 夏目 将平 浮島美術館は泳ぐ ー日本の沿岸空間の再生ー
- 松田 佳那 世田谷こども区 ー子供と子育てする親のための施設の提案ー
- 向井 正伸 足尾公害博物館
- 吉川 雅也 開放されたクラスルーム ー横浜市立帷子小学校の改築ー



横河 健教授

〈卒業設計〉

- 甘粕 陽介 カミノシマーエノシマ ー植物園における歌舞伎舞台の計画ー
- 荒井 亮蔵 多摩センター駅前公共施設的设计 ー生える部分が全体をつくるー
- 池田 真人 3次元町屋群構想 ー崖地における新しい集合住宅設計の手法ー
- 太田 佳織 melt
- 公文 直子 ウエヘソトへ ー児童館と幼保園の共存による新しい都心の保育空間の提案ー
- 大道寺重信 ギンブラ
- 田中亜利沙 歌舞伎町芸術文化広場
- 藤村 知子 HIROSHIMA ART
- 的場 弘之 Mt.Office Kitashinjuku 多彩オフィスの開放型集合体の提案
- 山口 貴司 それを橋と呼べるか
- 渡邊 貴通 AMEYOKO-NO-SAKI



山崎誠子助教

- 今田 洋貴 都市における寺町の空間評価と定量化について
- 枝 浩司 国民体育大会競技施設整備の実態と当大会後の施設運営に関する研究
- 近藤 里美 関東大手私鉄における緑化活動と世田谷区を縦貫する路線をモデルとした緑視率の研究
- 寺元 大悟 植物のもたらす商業施設への広告効果の研究 ー情報誌「Tokyo Walker」よりー
- 橋場友香梨 中間階における坪庭の可能性
- 吉宮 沙織 都市公園の名前のあり方について（市川市の事例を通して）
- 秋田 雄一 高齢者福祉施設におけるランドスケープデザインについて

〈卒業設計〉

- 入野 洋一 はぐくみのもり ー森が人を育て、人が森を守るー
- 小和田俊也 ーscape ー風景をつくる折れ曲がる一枚のカベとロジー
- 田名部 亮 シンスイ ー親水と浸水の空間でー
- 富田 洋平 小さな建築に服を着せたら



佐藤光彦准教授



〈卒業設計〉

- 井手口 航 非均質空間 ー均質空間における多様性と変容性ー
- 袁 宇昆 mosaic ーモザイクのような新しい集合体の提案ー
- 大野 佑太 Waffle House
- 小澤 歌子 東京湾における葬送建築の提案 ー浮体構造を利用したNIMBY建築の設計ー
- 楠 友介 Line City ー東急東横線跡地利用計画ー
- 久保木亮太 scramble apartment
- 鈴木 佳美 みちのいえ ー路地空間の領域による荒川木造密集市街地の再生ー
- 瀬崎 康平 Arch PEDE ー立川駅前ペDESTリアンデッキ建築化計画ー
- 高橋 大樹 ハイキョ的建築
- 森本 栄貴 Volumism ー本当の容積とはー
- 中野 透 GINBRANCH

山中新太郎助教



〈卒業設計〉

- 川島 悠都 トウキョウマングローブ ー既存都市空間に生育する建築システムの提案ー
- 谷口絵梨果 夕暮れの森ホテル
- 鳥居昂志郎 商店街の賑わいの定量化 ーアメヤ横町を事例としてー
- 林 雅和 都市のイメージの変化に関する研究 ー丸の内を対象としてー
- 森貴 幸子 112人の原宿団地物語 ある112人のリノベーション計画
- 八隅 裕介 around the wall ー都市のくぼ地を用いた集合住宅の提案ー
- 横溝 和也 劇場工場 池袋モンパルナス空間を用いた劇場を作る劇場の設計
- 領家 洋介 TSUKISHIMA GREEN ー庭の立体化ー
- 渡邊 貴章 SHINJUKE HORN ーコマ劇場跡地における複合音楽施設の計画ー

本杉省三教授



- 藤田 怜 公立文化ホールにおける時代対応のための改修に関する調査研究
ー1980年以前開館の県立施設を通してー

〈卒業設計〉

- 奥山 良樹 高速道路と地域にとってのサービスエリア
- 今関 俊 阿佐ヶ谷住宅再生計画
- 岩木 友佑 ひっぱられて、つながれて ー千葉みなと地区と共に生きていく商業施設の計画ー
- 島田 直道 渋谷駅ビル再開発計画
- 林 高平 S.O.S (サウンド・オブ・下北沢) ー積層される街に住むー
- 松下 翔大 柏市立柏第二小学校建替計画 ーオープンスペースの活用法を考えるー
- 真砂 遥 みつば保育園
- 有坂 達久 薄×高×穴 ー原宿団地再生計画ー
- 山本 崇嗣 Re:Housing ー地域・こどもと共に生きる大宮氷川神社参道沿い集合住宅の計画ー

佐藤慎也助教

- 大澤 綾子 デザインのための空間の研究 ―デザインイベントの現状調査を通して―
- 大野 寿文 アーティスト・イン・レジデンスの空間利用と運営に関する研究
- 数田 宗房 東京23区におけるギャラリー利用に関する研究 ―銀座エリアと青山周辺エリアを中心として―
- 佐久間高志 美術館展示室の自然光導入方法に関する研究 ―コンピュータによるシミュレーションからの考察―
- 佐脇三乃里 横浜市における創造活動に関する研究 ―クリエイティブシティ・ヨコハマを通して―
- 鈴木 亮介 1971年以降の企業施設デザインにおける建築家起用に関する研究 ―「新建築」掲載作品を通して―
- 原 友里恵 コンバージョンされた美術館に関する研究 ―改修経緯と展示空間評価の考察を通して―
- 藤井さゆり アートプロジェクトにおける展示空間の研究
- 松本江美子 コンバージョンされた演劇施設の研究 ―空間利用と今後の可能性について―



渡辺富雄准教授

- 栗野 茂斉 地域開放を目指す小学校づくりについての研究 ―小学校図書館の地域開放について―
- 岡 宏憲 特別養護老人ホームの居住者の行為からみた共用スペースについての―考察
―群馬県内の二つの施設の観察調査を通して―
- 西山 晴樹 首都圏の超高層マンションの共用施設に関する研究 ―2006～2008年竣工の事例を通して―
- 湯澤 亮介 単位制総合学科高等学校における自由活動空間に関する研究
―分散型、集中型の事例における動線、活動内容の考察を通して―
- 島影 新也 都心型集合住宅の住戸プランタイプに関する研究 ―SOHO対応住宅の事例を通して―
- 榎本 亮一 ハンス・オン展示に関する―考察 ―東京都内の理工博物館の事例を通して―
- 安田 哲也 コンバージョンによるストック活用に関する研究 ―千代田区のオフィスの事例を中心として―
- 〈卒業設計〉
- 小山 悠介 Miyashitamachi Housing Complex 都心部における団地空間の再生
- 広瀬 彰寛 城下町Library 公共建築をととした地方都市再生
- 南部晋治郎 Yanebito 屋根の上で暮らす人々のための大地



八藤後 猛専任講師

- 石川 雅也 児童自立支援施設における寮施設、および学校施設の環境整備
- 佐藤 哉子 大規模災害時における帰宅困難者への対策に関する研究 ―大学、企業（商業施設）における対策―
- 末吉 将悟 駅改札内商業施設の利用実態および空間特性に関する研究
- 長田 駿一 在宅認知症高齢者の在宅介護における住環境整備に関する研究
- 山田真由美 高齢者の新しい住宅 カレッジリンク型シニア住宅について
- 齋藤 敦嗣 住宅改修支援ソフトの開発に関する研究
- 井上まなみ ペピーカー利用者を対象とした商業施設のトイレ寸法に関する研究 ―商業施設のトイレ利用の現状について―
- 清水 崇宏 都市道路における自転車の利用状況と利用環境に関する研究 ―路上駐車とバス停まわりの状況把握と改善提案―
- 千葉妃加里・志治つむぎ
小学校における建築安全計画に関する研究
―小学校における建築空間の特徴と、学校内で起こる事故の関連性について―



宇杉和夫准教授

- 栗山 大 谷戸からみる道と生活圏の変化に関する研究
―多摩田園都市・港北ニュータウンの土地区画整理事業を通じて―



- 猿渡 俊 江戸路地空間の継承・再生に関する研究
- 渡辺 将智 田んぼによる高度複合都市空間まちづくりの検討 ―さいたま市の水と緑と風の環境デザイン―
- 千島 孝弘 月島の空間形成と路地空間の継承に関する研究

柳田 武専任講師

- 白石 陽介 港北ニュータウンにおけるグリーンマトリックス・システム計画について
- 鈴木 圭 PERTの基本的な考え方と最適化の手法 ―建設業における工程管理への応用―
- 矢嶋恵美子 工業製品の規格標準はどのようにして決まるのか? ―デジュリ・スタンダードとデファクト・スタンダード―
- 山内 秋穂 市街地における歩行者や自転車に配慮したまちづくり ―用賀プロムナードの現地調査を通して―
- 小宮 康輔 建築におけるBIMの考え方と今後の展開 付:CADデータからの各種情報の抽出
- 齋藤 卓馬 PFI事業モデルのVFM評価方法について ―神奈川県における事例を参考にして―
- 堀内 一冬 世界的金融危機が国内不動産ファンドに与えた影響について
- 間地ななえ 歴史的建築物の保存と活用について 資料:横浜市における歴史的建築物の保存活用の状況
- 宮村有樹彦 これからのグラフィティアートのあり方について ―リーガルウォールの導入と企業とのコラボレーション―
- 山本 峻平 コーポラティブハウスの可能性と課題 ―協同プロセスがもたらすコミュニティの形成―
- 吉良 徳泰 駅前放置自転車の現状と対策 ―武蔵野市(JR3駅)における実態を通して―



片桐正夫教授・大川三雄教授・重枝 豊准教授

- 秋澤 吉洋 吉田鉄郎の作品に見るRC造の表現
- 植村 嘉仁 アメリカに影響を与えた日本建築 ―東部のジャポニズムと西部のジャポニズム―
- 臼井 美郷 木造旅館建築の建築的特徴とその発展過程 ―旅館建築史のための基礎的研究―
- 大越はるか 日本における透明板ガラスの技術と意匠 ―ガラス壁の用いられ方の推移―
- 清水 涼子 安藤忠雄建築における空間構成の特徴 ―動線のドラマ性から探る―
- 川崎 浩平 A.N.Hansellの建築活動とその評価 ―経歴と軌跡―
- 金沢 昭 プレファブリケーションにみる清家清の建築観
- 木川 正也 大正期の建築思想にみる「表現」と「構造」
- 福永 藍 谷口吉郎作品の日本的意匠の現れとその要因 ―記念生と風土の関わり―
- 平田 史明 絵画・文献資料にみる大工道具と作事現場に関する一考察 ―鋸・鉋・鉋・鋳・墨壺の使用法を中心として―
- 須田 華世 堀口捨己の著作にみる庭園表現について 空間概念の分析からみる『空間構成』に至る過程について
- 三井 涉 ジャイナ教・ラーナブクルのアーディーナータ寺院の建築構成に関する一考察 中間型の延長としての西インド・ソーランキー朝様式からラーナブクルに至るまで
- 吉河 真実 清家清が設計した住宅の設計趣旨と評価に関する一考察 ―雑誌「新建築」にあらわれた言語表記を中心として―
- 六島 弘喜 教王護国寺五重塔と本門寺五重塔の建築構成に関する比較研究 建築各部の比率・手法の分析を中心として
- 有島 佳延 ウィリアム・モリスの「人間美観」と「労働観」の相関性についての一考察 後期(1884~)の著作活動を中心として
- 岩瀬 陽彦 ジョサイア・コンドルの住宅思想 丹下健三にみる伝統に対する理念と表現



小嶋勝衛教授・根上彰生教授・宇於崎勝也准教授・川島和彦専任講師

- 石渡 抄苗・梁 基玄・綿井 菜摘・成田健一郎 韓国の永久賃貸住宅におけるコミュニティ活性化事業に関する研究 ―ソウル特別市中溪住公9団地および樊洞住公2団地を対象として―



市橋 彩子・大岡亜沙美・山崎 香

中国・北京市における芸術区の形成過程と実態に関する研究

内田 裕紀・海老原敬宏・尾沼 勇人

まちづくりガイドライン策定における誘導項目の協議プロセスと運用実態に関する研究
— 大崎駅周辺地域都市再生緊急整備地域を対象として —

岡 良・片山真沙美・福田 智寿

都市開発事業における CASBEE 一まちづくりの導入に関する研究

岡村 彰子・菅 美穂・坂本 恭通

高齢社会に対応した公園の配置計画及び空間構成に関する研究 — 散歩行動に着目して —

柿岡 一躍・定本 雅文・佐藤 太一・高橋 勇也

中心市街地における地権者等参加による商店街マネジメント手法に関する研究 — 自主規範に着目して —

榎山 祐司・塚本 玲央・中野 直樹

町屋再生施設が住民の意識・活動に及ぼす影響に関する研究
— 加賀市大聖寺地区における町屋再生事業を対象として —

小市 慶広・塚本 香奈・若尾 越志

中山間地域の温泉地におけるまちづくりの変遷に関する研究 — 長野県下高井郡山ノ内町渋温泉を事例として —

佐久間智己・高瀬 治郎・力武 俊輔

ベトナム・ハノイ市旧市街地の街路空間特性に関する研究

塩塚 亮範・鈴木 章仁・中山 雄人

都心部におけるサンクンガーデンの空間構成に関する研究 — 「囲まれ感」に着目して —

神保 享平・放出 拓也

住民・事業者・行政が連携したバリアフリー基本構想の策定に関する研究
— 協議会の設立・運営手法に着目して —

羽入敏樹(短大)准教授・星和磨(短大)助手

池本 宏平

サッカースタジアムの形態が大観衆による歓声音に及ぼす影響

高山 恵梨

3次元閉空間音場におけるモードの予測・評価・可聴化システム

橋本 祐太

視覚から想起される残響時間の許容範囲と弁別閾

堀内 達朗

建築空間のマルチチャンネル立体録音再生システムを構築する際の問題点

森岡 絵美

コンサートホールにおける初期減衰と異なるリバーブテイルの音響効果



黒木二三夫(短大)教授

大倉 直樹

田中 雅人

壁面開口部を有する膜構造建築物の風力特性に関する実験的研究

斗澤 良太

本田 浩志

構造教育支援に関する研究



下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)専任講師

高橋 広希

常時微動を利用した既存建物の耐震性能評価に関する基礎的研究
その1 H/V スペクトルによる地盤特性の推定

木下 晋輔

常時微動を利用した既存建物の耐震性能評価に関する基礎的研究
その2 RC4階建建物の耐震補強前後の微動変動

三柴 秀登

常時微動を利用した既存建物の耐震性能評価に関する基礎的研究
その3 鉄道軌道に隣接した木造住宅の電車振動測定



平成20年度 短期大学部 卒業生一覽

青木 裕也	川上 健太	高野 美央	兵藤 大輝
赤羽 美紀	金 鍾旭	高橋 拓也	平川 雄基
秋山 翼	木村 郷美	滝沢 友香	藤川 智樹
浅井 剛	清宮 知美	竹内 佑希	藤田 智貴
麻生 将司	黒井 幹雄	田島 光	古澤 利樹
足立 翔	黒田恵理佳	田中 敦	堀川 史也
渥美 大地	小寺真由美	田中 崇仁	前川 裕幸
阿部 智己	小林 拓矢	玉造 央貴	前田 直樹
伊川佳菜子	齋藤 善張	露崎 大輝	馬上 和祥
石川 亮太	佐藤 降一	徳永 弘之	三鍋 和哉
石田 惇矢	里見 龍	富田進太郎	村上 竜一
石田 大樹	嶋司 靖彦	土肥 香織	山口 雄大
石野 史子	清水竜太郎	中村 令	山本 尚輝
井上 雅也	下田 美羽	中屋 伸章	吉村 俊輔
今村 徹	菅野 祐樹	西村 准一	若松 達矢
植木 亮博	菅原 誠志	信田 翔平	渡辺 一成
岡本 浩一	杉山 正和	橋口真奈美	渡辺 直人
小田 雄太	鈴木 直	橋本 侑佳	渡辺裕次郎
勝山翔太郎	瀬越 章郎	埴 めぐみ	
狩野 藍	曾宮 諒	速水 脩平	

研究室所在一覽

駿河台校舎

5号館

3 F 建築学科コンピュータ演習室 (534室)

4 F 建築教室事務室 (栗原・矢萩 542室)

5 F 設計講師室 (梅田・岩崎 553室)

6 F 対震構造研究室

(古橋 564A室・秦 564B室)

地盤基礎研究室

(安達 565A室・山田 565B室)

材料施工研究室 (中田 566A室)

RC構造研究室

(白井 567A室・田嶋 567B室)

構造系助手室 (高橋 568A室)

鋼構造研究室 (半貴 568B室)

空間構造デザイン研究室

(岡田 569B室・宮里 569A室)

7 F 建築学科主任室 (574A室)

建築史・建築論研究室 (大川 576A室・

重枝 575A室・大山 575B室)

環境系助手室 (浜野 577A室)

池田研究室 (池田 577B室)

蜂巢研究室 (蜂巢 578A室)

環境・音響工学研究室 橋本研究室

(橋本 578B室)

建築音響研究室

(井上 579B室・富田 579A室)

8 F 宇杉研究室 (宇杉 584A室)

柳田研究室 (柳田 584B室)

八藤後研究室 (八藤後 585A室)

渡辺研究室 (渡辺 585B室)

本杉研究室 (本杉 586A室)

佐藤慎也研究室 (佐藤(慎) 586B室)

山崎研究室 (山崎 587A室)

横河研究室 (横河 587B室)

佐藤光彦研究室 (佐藤(光) 588A室)

山中研究室 (山中 588B室)

今村研究室 (今村 589B室)

9 F 都市計画研究室 (根上 595A室・

宇於崎 595B室・川島 594B室)

防災科学研究室 (三橋 596A室)

横内研究室 (横内 596B室)

船橋校舎

5号館

4 F 吉野研究室 (吉野 545A室)

大塚研究室 (大塚 545A室)

田所研究室 (田所 545B室)

矢代研究室 (矢代 546A室)

小石川研究室 (小石川・高田 546B室)

6号館

2 F 環境情報研究室 (羽入 622A室)

9号館

1 F (短) 建設事務室 (星 915室)

2 F 黒木研究室 (黒木 921B室)

酒匂研究室 (酒匂 926A室)

内藤研究室 (内藤 926B室)

下村研究室 (下村 926C室)

新任教員紹介

池田耕一 先生 (教授・建築設備)



略歴

1970年

早稲田大学理工学部建築学科卒業

1975年

東京大学大学院工学系研究科建築学専門
課程博士課程修了(工学博士)

1975～2008年

国立保健医療科学院(旧国立公衆衛生院)

この春より本学にお世話になることになりました。私は本学の卒業ではありませんが、本学との付き合いは大変長く、30年くらいになります。と申しますのは、私が大学院を卒業して以前の職場、国立保健医療科学院の前進、国立公衆衛生院に奉職したその年から、当時本学の教授であられた木村翔先生、吉田燦先生のところの大学院生や卒論生とお付き合いさせていただいていたからです。その当時は私も30歳になっておらず、大学院生や卒論生とは友達気分で修論や卒論のための実験や実測に明け暮れ、夏休みには山中湖あたりの小民宿へテニスに、冬には志賀高原へスキーに行くなど、一緒に楽しく過ごしていた思い出があります。以来、本学から卒論や修論を書きにくる人たちと研究をし、ここ数年は、非常勤講師として大学院の授業をもたせていただいておりますので、本学のことを、まるで母校のように思っております。少しでも本学の事業に寄与できるよう頑張りたく思っています。よろしくお願いたします。

(いけだこういち)

横内憲久 先生 (教授・地域開発計画)



天王洲・
水上レストラン



略歴

1972年

日本大学大学院理工学研究科建設工学専
攻修士課程修了(市川・小嶋研究室)

1972～1979年

日本大学理工学部建築学科助手

1979～2009年

日本大学理工学部海洋建築工学科専任
講師・助教授・教授

1992年～現在

日本大学大学院理工学研究科不動産科学
専攻教授

新任教員というにはかなりトウが立っており面はゆい気持ちですが、これから建築学科でお会いする学生や若い教員諸君とはほとんど初対面ですので自己紹介をします。

1972年に大学院(修士)を修了して、建築学科都市計画研究室の助手を7年間務め、1979年に海洋建築工学科に籍を移し、30年後の今春に再び建築学科にお世話になることとなりました。専門はもちろん都市計画ですが、1975年7月「ウォーターフロント」という本(鹿島出版会)を出して以来、研究室は「ウォーターフロントからのまちづくり」をキャッチフレーズにしています。30年間の海建時代に、法律でいえば、建築基準法、都市計画法に加えて、港湾法、海岸法、漁業法などの範疇も理解してきたので、これまでの建築学科が対象としてきたフィールドの幅が広がるのではないかと考えています。2006年に私の研究室が関わった、日本初の浮体式水上レストランがオープンしましたが、これが新たなフィールドでの端緒といえるかもしれません。厳しく、楽しくが信条です。よろしくお願いたします。(よこうちのりひさ)

金島正治 先生

(教授(研究所)・環境システム解析)



略歴

1976年

東京工業大学大学院建築学専攻修了(工学博士)

1976~2008年

清水建設(株)(エネルギー関連業務担当)の間、日本大学、東京工業大学、東洋大学非常勤講師

大学の建築学科では物理環境工学専攻と硬い言葉を並べた講座で勉強をしていました。今でこそ企業の社会的責任(CSR)などとうるさく言われていますが、当時は公害防止工学という開発を前提とした授業を受けていました。社会に出てからは、環境と共存した開発とするためにエネルギー利用を地域でどのように取り組むか、市街地開発と組み合わせる地域冷暖房として創って来ました。また、洋上太陽光発電や水産廃棄物利用などが国初の開発含みの新エネルギーシステムも創って来ました。新しいエネルギーシステムの創造は建築設計の楽しみにも通ずるものがあります。エネルギーシステムは環境に対する配慮がなくては成立しません。完成したときの充実感、何十年にわたり働き続ける姿を見る満足感を得るためにも、環境システムに関する知識の涵養が必要です。

(かねしまさじ)

秦 一平 先生

(助教・振動工学)



略歴

1999年

日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(石丸研究室)

1999~2001年

飛鳥建設技術研究所

2001~2009年

日本大学理工学部環境・防災都市共同研究センター技術職員

この春より、理工学部建築学科に籍をおくことになりました。私は、学部3年生のときに起きた阪神淡路大震災の被害をみて、建物が大地震で簡単に壊れていることに大変愕然としました。そのきっかけから、構造物の安全性を追求するため、免震・制震構造という分野に興味をもつようになりました。その後、本学部で平成11年度から行われた文部科学省学術フロンティア推進事業「環境・防災都市に関する研究」プロジェクトの研究拠点として建設された、環境・防災都市共同研究センターに技術職員として8年間勤務してまいりました。私はその経験から、多くの学生に、一つのものを成し遂げたあとの「達成感」と共同で作業するための「協調性」をぜひ学んでほしいと思っています。

(はたいっぺい)

岩崎陽子 先生

(助手・設計講師室)



略歴

2004年

関東学院大学工学部建築学科卒業

2006年

日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(今村研究室)

2006~09年

リード・ビジネスインフォメーション(株)(DETAIL JAPAN編集部)

この春より、建築設計の授業で助手をさせていただくことになりました岩崎陽子です。私は、本大学院今村雅樹研究室を修了後、約3年間という短い期間ではありましたが、建築雑誌の編集に携わり、建築の可能性についてさまざまな場面で考える機会をもって来ました。このところ明るい話題が聞かれない建築界ですが、そんな今こそ、建築へ幅広い視点を取り込み、明るい未来を切り開いていくチャンスなのではないかと感じています。

私自身、大学・大学院時代に建築と出会い、先生方から多くのことを学んだことで、人生の幅が広がったように、学生の皆さんが建築をもっと身近なものとして捕らえ、さまざまな可能性が広げられるように手助けができればと考えております。まだまだ未熟な私ですが、これまでの経験を生かし、一層努力していく所存でございますので、どうぞよろしく願いいたします。

(いわさきようこ)

■**輪湖大元君**（佐藤光彦研'08年度修了）の「風景が寄り添う家」が、木下領氏と共同で「第15回ユニオン造形デザイン賞 優秀賞」（主催：ユニオン造形文化財団）を受賞した。「小さな木の家」をテーマに、プロダクトデザイナーの深澤直人氏が審査員を務めた。

■**大西健太君**（本杉研 M2）、**岩田敏幸君**（同）、**前坂達男君**（山中研 M2）の「巢と繭」が、「第2回長谷工住まいのデザインコンペティション 佳作」（主催：長谷工コーポレーション）を受賞した。「30年後の集合住宅」をテーマに378点の応募から選ばれた。

■**五百蔵純一君**（山中研 M2）、**松本晃一君**（同 M1）の「こわれかけのイエ」が、「第12回 TEPCO インターカレッジデザイン選手権 佳作」（主催：東京電力）を受賞した。「イエガタ21世紀」をテーマに482点の応募から選ばれた。

■**岡田章教授**、**宮里直也助教**の共同設計による「品川シェルター」の公開実験が船橋キャンパスで行われた（表紙）。木材を格子状に組んだ枠によるシェルターが、耐震補強のために木造家屋に取り付ける装置となる。品川区が主体となり、区内の建築関連業界と理工学部が連携して開発に取り組んでいる。

■平成20年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科313名（9月卒業7名含む）、大学院建築学専攻博士前期課程54名（9月修了2名含む）、同後期課程2名、同不動産科

教室ぶろむなード

学専攻博士前期課程13名、短大建設学科78名であった。

■**石丸辰治教授**、**片桐正夫教授**、**小嶋勝衛教授**、**関口克明教授**、**早川眞教授**、**國吉葉苗助手**、**永井佑季助手**、**長谷川洋平助手**が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、**池田耕一教授**、**横内憲久教授**、**金島正治教授**（研究所）、**秦一平助教**、**岩崎陽子助手**、**大山亜紀子助手**、**高橋裕子助手**、**浜野祐子助手**の8名である。

■**建築学科**、**大学院建築学専攻**の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。
〈新任〉

石丸 辰治（構造動力学特論）
片桐 正夫（建築保存修復学特論）
加藤 未佳（環境工学Ⅲ、建築環境実験）
小嶋 勝衛（都市居住環境特論）
佐倉 勇（建築設備設計演習）
濫井 和夫（不動産経営）
関口 克明（建築環境工学特論Ⅲ）
千田 光（建築構造設計演習）
染谷 正弘（建築設計マネジメント特論）
高橋真奈美（建築設計Ⅲ、設計演習Ⅰ）
竹内 申一（建築設計Ⅳ、設計演習Ⅱ、建築設計演習特論）

中島 肇（建築構造設計演習）
早川 眞（建築環境工学特論Ⅳ）
福山 博之（建築設計Ⅰ）
船木 幸子（建築設計Ⅳ、設計演習Ⅲ）
和美 廣喜（建築生産実験）

〈退任〉

内田 陽一（地域開発計画Ⅰ）
榎本 弘之（建築設計Ⅵ、設計演習Ⅱ、Ⅲ）
奥田かつ枝（不動産経営）
川口 英俊（建築設計Ⅳ、建築デザインⅡ）
杉 千春（建築設計Ⅳ、Ⅴ、デザインワークショップ特論）
関澤 勝一（建築計画特論Ⅰ）
高階 澄人（建築設計Ⅲ、Ⅳ、設計演習Ⅰ）
友澤 史紀（建築材料特論Ⅱ）
平山 善吉（木質構造特論）
藤井 和俊（建築生産実験）
堀越 義章（都市居住環境特論）
吉村 純一（建築環境実験）

■**短大建設学科**の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉
高橋 昌宏（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）
福西 浩之（ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ）
三上 功生（障害者支援論）
〈退任〉
久々湊直子（美術・様式史）
藤井 和俊（建築施工法）
森田 信幸（建築設計Ⅱ、建築設計Ⅲ）
山田 和之（建築設計Ⅱ、建築設計Ⅲ）



風景が寄り添う家



巢と繭



こわれかけのイエ

駿建目次

2009年4月号 Vol.37 No.1 通巻153号

表紙「品川シェルター」

設計：岡田 章+宮里直也
撮影：空間構造デザイン研究室

プロフェSSIONALを目指して	2	平成20年度 博士論文・修士論文・設計 タイトル一覧	21
平成21年度 建築学科 履修要項	3	平成20年度 卒業研究・設計 タイトル一覧	24
建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書	12	平成20年度 短期大学部 卒業生一覧	33
平成21年度 短期大学部建設学科 履修要項	15	研究室所在一覧	33
短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書	17	新任教員紹介	34
平成20年度 各賞受賞者一覧	19	教室ぶろむなード	36